

京都大学教育研究振興財団助成事業
成果報告書

平成24年4月17日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会長 辻井昭雄様

所属部局・職名 経済研究所・所長

氏名 溝端佐登史

助成の種類	平成23年度 ・ 社会連携助成		
事業名	京都大学附置研究所・センターシンポジウム 京都からの提言 21世紀の日本を考える (第7回)		
実施期間	平成24年3月17日		
実施場所	神戸市 神戸国際会議場メインホール		
参加者	総数 370名	内訳 一般参加者 300名、関係者 70名	
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有(別紙のとおり)		
会計報告	事業に要した経費総額	12,749,720円	
	うち当財団からの助成額	4,000,000円	
	その他の資金の出所	全学協力経費、読売新聞大阪本社寄付金、 研究所・センター分担金	
	経費の内訳と助成金の使途について		
	費目	金額 (円)	財団助成充当額 (円)
	○会場使用料(神戸国際会議場)	920,850	268,000
	○広告費(読売新聞広告)	5,450,000	2,850,000
	○印刷費(ポスター、チラシ等)	3,533,410	882,000
	○通信費(広報物等発送費)	26,080	
	○シンポジウム進行業務委託費	1,411,800	
○人件費(講師旅費・謝金、運営要員旅費)	405,780		
○旅費(打合せ、会場調査等)	21,800		
○雑費	980,000		
合計	12,749,720	4,000,000	
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 本シンポジウムは、22の附置研究所及びセンターが取り組んでいる基礎研究や先端的な学術研究の成果の一部を、広く国民の皆様に分かりやすくお伝えすることを目的として、毎年開催しております。今後も全国主要都市で年1回開催して参りますので、引続き本シンポジウムにご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。		

成果の概要

報告者：(実施代表部局) 京都大学経済研究所長 溝端 佐登史

第7回 京都大学附置研究所・センターシンポジウム

京都からの提言 21世紀の日本を考える

貴財団のご支援を得て京都大学の22の附置研究所・センターが主催のシンポジウム「第7回 京都大学附置研究所・センターシンポジウム 京都からの提言 21世紀の日本を考える」を3月17日(土)神戸市・神戸国際会議場メインホールにおいて開催いたしました。

第1回の東京・品川、第2回の大阪、第3回の横浜、第4回の名古屋、第5回の福岡、第6回の京都に続く第7回目の今回は、「明るい社会の未来像」をサブテーマに、松本紘総長の開会挨拶の後、福田秀樹神戸大学学長の歓迎ことばをいただき、引き続き「バイオリファイナー展望」、「生命誕生の設計図～再生の仕組みを解く鍵」瀬原淳子教授(再生医科学研究所)、「スーパーコンピュータが拓く未来」中島 浩教授(学術情報メディアセンター)、「夢を現実にするナノ空間材料」北川 進教授(物質—細胞統合システム拠点)、「日本人移民の歴史と多文化共生社会の明日」竹沢泰子教授(人文科学研究所)の5つの講演を行い、最後に、「震災後の復興について」をテーマに、三野和雄教授(経済研究所)をコーディネーターとし、神戸大学経済経営研究所浜口伸明教授、大阪大学社会経済研究所芹澤成弘教授、矢野誠教授(経済研究所)をパネリストに迎えパネルディスカッションを行いました。

各講演では、今回のサブテーマ「明るい社会の未来像」のもと、本学の附置研究所・センターが取り組んでいる基礎研究や先端的な学術研究の成果が分かりやすく紹介されました。

パネルディスカッションでは東北沿岸地域の復興、電力の安定供給、非常時に強い社会の構築といった問題に焦点をあて、短期・長期の両方の視点から日本経済の復興の道筋について討論が行われました。

会場には神戸・大阪・京都など関西圏からの参加者が多い中で、北は北海道、南は熊本からと全国各地から370名の方々にご参加いただきました。また、参加者の年齢は10代から80代と幅広く、参加者の年代分布を調べてみると50代以上の参加者が多いものの、全世代からの参加者がありました。

聴講者の皆様からいただいたアンケート結果によると「最先端の研究内容が非常に分かりやすく説明され、大変勉強になった」「講演概要をまとめた資料を事前に

配付して欲しい」「多くの研究が社会へと還元されているが分かり、これらのことも含め東日本大震災の復興へとつながればと思いました」「各地を巡るのも大事ですが、やはり拠点である関西では毎年の開催を希望します」「講演で使用したパワーポイント資料などをインターネット等で再確認できるようにしてほしい」等々のご意見をいただき、多くの方々に大学の研究が人々の生活や地域社会に貢献しているかを知っていただく機会を提供できたと考えます。

以上、第7回のシンポジウムの成果をご報告申し上げますとともに、本シンポジウムは、22の附置研究所及びセンターが取り組んでいる基礎研究や先端的な学術研究の成果の一部を、広く国民の皆様に分かりやすくお伝えすることを目的として、毎年開催しております。今後も全国主要都市で年1回開催して参りますので、引き続き本シンポジウムにご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。